

平成24年度第5回宇都宮市河内自治会議録

1 日 時 平成24年9月5日（水） 午後2時00分～午後4時35分

2 場 所 河内地域自治センター 第1・2会議室

3 出席者

【委員】 杉原弘修委員（会長）、川上幸子委員（副会長）、石渡重道委員、伊藤昭博委員、
計15名 太田達彦委員、加藤幸雄委員、君島京子委員、駒田静雄委員、櫻井基一郎委員、
洪井トミ子委員、清水恵美委員、五月女京子委員、中西幸子委員、真壁諦委員、
吉田恵美子委員

【事務局】 河内地域自治センター所長、北部地区行政推進担当参事、地域経営課長、他5
計8名 名

4 会議の公開・非公開 公開

5 傍聴者数 なし

6 会議経過

(1) 開会

- ・本日の会議の出席者数は15名、磯川康男委員、高久剛一委員、田村正男委員、松谷宣子委員が欠席。委員数の過半数に達しているので、会議が成立することを事務局から報告。

(2) 協議事項

- ①地域のまちづくりに関する施策の提案（テーマ：「教育・文化、健全育成」）について
- ・実現プランの設定について

発言者	発言内容
会 長	<p>前回の会議で審議いただいた答申書を、8月7日に副会長と一緒に市長に提出した。その時の記事が、新聞に掲載されたので、記事の写しを皆さんに配付する。</p> <p>本日は、前回に引き続き地域のまちづくりに関する施策の提案について、「教育・文化、健全育成」のテーマについての協議を行う。</p> <p>協議事項の実現プランの設定について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	参考資料1、資料1の説明
会 長	それでは、参考資料1、資料1について説明があったが、何か意見・質問等はあるか。
全委員	(質問なし)
会 長	それでは、実現プランについて、グループ協議をお願いします。
実現プランを抽出するためのグループ協議を実施	
会 長	時間になったので、発表していただきたい。B・Cグループ、Aグループの順で発表をお願いします。
委 員	<p>B・Cグループから発表する。</p> <p>『目標』の「水と緑を活かした学びを通し・自然と親しめる『まち』」についてだが、思った以上に河内は自然が豊かな地域である。その良いものを更にどうするのかということが、今日のテーマになると思う。</p> <p>実現方策No.7の『地域の貴重な自然を守る教育を進める』には、様々な方法があると思う。協働という言葉がある。学校だけでも、地元だけでも、役所だ</p>

けでもなく、自助共助公助で、皆で考えていかなければならない。その実現プランの1番目としては、「地域の豊かな水と緑を生かした環境保全の教育を強化する」。2番目としては、「小中学校の自然体験授業を行う」。3番目としては、「生涯学習センター等で自然保護セミナー等を実施する」。現場で学ぶことが一番良い。

実現方策No.8の『地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす』の実現プランの1番目としては、「自然資産を生かした散策路、遊歩道を整備する」。2番目としては、「自然環境保全地域を指定して乱開発を防止する」。3番目としては、「自然を取込んだ遊び体験のイベントを起こしまちづくりに活かす」。西下ヶ橋地区や逆面地区でも、いろいろな事業を行っているが、あるものを上手に活かすことが大切だと思う。また、地域の良い所を発見し、ワークショップなどで結び付けるのも大切だと思う。

実現方策No.9の『農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ』の実現プランの1番目としては、「学校と地域の連携で食育体験をさせる」。2番目としては、「生物の食物連鎖と命の大切さを、農業体験を通して理解させる」。3番目としては、「田んぼの学校の推進と普及活動を行う」。田んぼの学校は、NPO法人グランドワークで行っている。また、河内地域自治センター産業課と一緒にやっている「チャレンジ自然 in かわち」では、年間を通して稲刈りやもちつきなどの農業体験、生き物調査などを行っている。来月はハロウィンだから大きなかぼちゃを使って体験する。但し、単に農業体験ではなく、学校との連携を取り、食育を通して更に自然の大切さを学ぶことができる。食育には、地域の伝統食も入っているので大切にしてもらいたい。

実現方策No.10の『地域のみなが楽しめる交流の場をつくる』の実現プランの1番目としては、「地域ごとに各団体が、いつでも使える設備と駐車場を整備する」。従来のものを整備するというので、新しいものを作るのではない。2番目としては、「これまでの施設や事業を持続発展させる」。3番目としては、「地域内の自然公園を整備する」。西下ヶ橋地区や岡本地区にある施設などは、河内地区の人が知らないことがある。例えば、農村体験交流館は、使用が無く空いている時期がある。これから、12月にかけて使用されるが、春先から現在までは、日中などは空いている状況だ。冷房設備もあるし、蒸し器などあり、味噌作りや蕎麦打ち体験などを行っているが、そういう施設があるのを知らない地域の人もある。地域の公民館でもいいので、そういう施設を活かすことが大切である。

実現方策No.11の『地域の各種団体や学校との連携を強化する』の実現プランの1番目としては、「小中学校に自然保護に取り組んでいる人を呼んで講義する」。2番目としては、「小中学校で実践しているマナーとルールを推進運動を、地域ぐるみで支援し、情操教育を進める」。

実現方策No.12番の『地域活動の指導者を育成する』の実現プランの1番目としては、「地域の中で貢献した人のリストアップとインストラクター講習会を行い人材確保を図る」。2番目としては、「高齢者等の経験と知恵を活用することのできる事業を進める」。これには、自然保護のインストラクター等の講習会を農林省で行っており、県外での3泊程度の研修で資格が取得できる。このように学ぶ場がたくさんある。グループ協議で意見は出なかったが、私はいろいろ

	<p>るなイベントに携わり，その中で感じたことだが，イベント中に，男児が鉋で指を切ってしまった。また，蜂に刺された子供もいた。イベント中に起きるリスクマネジメントを知っておかなければならないと思う。リスクマネジメントもしっかり学んでおかないと，危機に対応できない。</p>
<p>委員</p>	<p>Aグループの発表をする。</p> <p>実現方策No.7の『地域の貴重な自然を守る教育を進める』の実現プランの1番目としては，「学校へ出前講座を開く」。2番目としては，「小学校向けの自然マップを作る」。3番目としては，自然を守るには，きれいで美しくなければいけないので，「クリーン作戦，生き物，生物を視察」をするという意見が出た。</p> <p>実現方策No.8番目の『地域の素晴らしい自然をまちづくりに活かす』の実現プランの1番目としては，「魚つかみ取り大会を復活させる」。昔はやっていたようで，また九郷半川をせき止めて，つかみ取りをやってはどうか。2番目としては，「自然の中で，演奏会などを実施する」という意見が出た。</p> <p>実現方策No.9の『農業体験や食育を通して自然の大切さを学ぶ』の実現プランの1番目としては，テレビ等でB級グルメの大会があり，すごい行列になっているので，「B級グルメをこの地域でも作る」。2番目としては，NPO法人グランドワークが実施している「田んぼの学校をもっと盛んにする」。3番目としては，道の駅を作り「子どもが野菜を作り，直販所で自ら販売する」という意見が出た。4番目としては，直売所で販売するだけではなく，「特産品を使って，料理教室を開く」という意見が出た。</p> <p>実現方策No.10の『地域みんなが楽しめる交流の場をつくる』の実現プランの1番目としては，「逆面獅子舞親子でイベントに参加する，運動会等で河内音頭を復活させる」。昔は河内音頭を踊っていたが，もう一度復活させて，地域の大切なものを継続していくということ。2番目としては，「連凧を作って，競技大会を行う」。3番目としては，「芋煮会，かかしまつり，田んぼ中で星を眺めながら，スライドや映画の鑑賞をする」。4番目としては，白沢地区が，市の景観形成重点地区に指定されており，この地区をもっと活性化させたいので，「白沢宿に駐車場，公衆トイレ，空き家を利用してカフェやおしゃべりサロンをつくる」という意見が出た。</p> <p>実現方策No.11の『地域の各種団体や学校との連携を強化する』の実現プランの1番目としては，青少年育成協議会で実施している「自然観察会“わくわくフェスティバル in かわち”の充実，拡大」と考えた。子供から大人，高齢者まで参加しているので，もっと充実し，拡大して盛大なイベントにしてはどうか。その時に「子供の絵を展示」することも考えた。さぎ草の夕べでも，数年前に子供の絵を展示したりしたので，これを継続的に行ってはどうか。2番目としては，「学校側も“オープンスクール”をもっと大々的にPRする」。3番目としては，「出前講座をする」という意見が出て，学校と連携していろんな講座を活用してもらおうという意見が出た。</p> <p>実現方策No.12の『地域活動の指導者を育成する』の実現プランの1番目としては，「経験豊富な高齢者を指導者に迎える」。経験した高齢者の方は，いろいろなことを知っているなので，新たに指導者を育成してもらいたい。2番目としては，「各地域のイベントを視察する」。河内地区以外のイベントを視察することで勉強になるので，指導育成にも繋がる。3番目としては，「育成するカリ</p>

	<p>キュラムを考え育成する」。実現に向けて、実際的な意見を出したので、これに向けて出来れば良いと思う。</p>
会 長	<p>各グループの発表が終わったが、何か質問等あるか。</p>
委 員	<p>いろいろなイベント・行事を実施し、継続していくことは、良い事だと思う。以前に栃木市を視察し、各地方から、大勢の人を集めるという力を見た。そのことから、このようなイベント・行事などをどれだけ大きくしていけるか、ということが一番の課題だと思う。すべてのイベント・行事が、どのように広がっていくのか、また広げていくのか。</p> <p>NPO法人グランドワークの田んぼの学校に携わっており、東京方面から来ていただいているが、まだまだ少ない。宇都宮市の中の河内地区に行ってみよう、と思うような魅力を積み重ねていくことが課題だと思う。あらゆる行事をどのように高め、地域に知らせていくのか。その繋がりを検討する必要があるのではないかと感じている。</p>
委 員	<p>お手元の資料をご覧いただきたい。河内地域自治センター産業課が担当している「チャレンジ自然 in かわち」の資料の内容を見ると、蛍の観察会、生き物調査会、農作業体験、おまんじゅう作り、もち米でもちつきなど、農作業体験と食育が関連するように、また地域の伝統行事と関連するように実施している。</p> <p>農村生活研究グループが主体だが、母親たちが一生懸命で、申し込みの初日にいっぱいになってしまう。今年は13組の予定だったが、組数を増やして全員で60名の参加になる。両親から小さい子供、赤ちゃん連れもいる。田んぼの中で、子供が泥んこになって活動している。広めていくことは大切で、広報とか可能な限りの情報網を活用し募集し、年会費をいただいて実施している。農村生活研究グループやNPO法人グランドワークの田んぼの学校等を組み合わせたり、学校と連携したりしている。NPO法人エコネットかわちの農地・水・環境保全向上対策事業では、峰小学校、宇都宮大学、白楊高校、白沢小学校などのいろいろな関係機関が、子供たちと一緒に連携して行っている。そういう点でも、少しずつでも拡大していければ良いと思う。参考としていただきたい。</p>
委 員	<p>私たちB・CグループとAグループの説明を受けて感じたことは、Aグループで発表された、実現方策No.11の『地域の各種団体や学校との連携を強化する』や、実現方策No.10の『地域みんなが楽しめる交流の場をつくる』の項目について、出前講座を開くという意見が出た。まちづくり協議会の各団体がわからないという意見もあるが、各団体が、小学校・中学校に出向き、経験豊富な高齢者がいろいろな話ができるので、この項目をもっと積極的に具体的に進める必要がある。B・Cグループについても、最後に高齢者の経験と知恵を活かすことを掲げているので、とても大切だと思う。特に、食育関係と学校の課題があると思う。これに加え、最近クローズアップされているいじめの問題では、登校拒否をしているという事例もあるので、このような問題こそ、高齢者がここに出向いて行って、仲良く遊ぶ、友達を守るという道徳教育を含めて話をする必要がある。私たちが議論していることは、今回で12項目となり、このテーマについてはクリアした。出た意見の具体的な実現プランについて、実施されるのは、自治会議が終了する平成28年に、提案が形になるのであれば、相当の時間ロスがあるのではないかと。取組めることがらについては、まち</p>

	<p>づくり協議会の各団体の力へ委ねたいと思うが、できるものについては、実施に直ぐ取組むことが必要だと思う。今までの議論の中でも、自然マップや歴史資料の作成という意見が出たが、過去、先進地視察に行った先でも、資料やガイドマップを作成していた。現在、河内には歴史資料があるが、古い資料のモノクロ写真であり、見づらく、読みづらい面もあるので、新規にダイジェスト版を作成し、この地区をPRしていく必要がある。これは、自治会議では出来ないし、また、まちづくりの団体だけでも難しいと思う。協働で、行政の力を借りながら、進めるしかないと思う。幸手市に視察に行った時には、市の職員の方が、数年をかけて作り上げたきれいなガイドブックがあった。栃木市でも作成してあったが、これらを真似しながら、河内としての最新版を作る必要があると思う。そのためには、今から手がかけなければいけない。平成28年から始めるのではなく、コツコツと時間をかけて進める必要がある。私たちが議論していることは、自治会議というひとつの土俵の中で、終了してしまう。いかにこれらをまちづくり協議会と連携しながら、具体的に推進していくことが重要になると思う。できることから、取組んで行くことが大事であることを強調させていただきたい。</p>
委員	<p>中身を掌握するのに大変だと思っていたが、会議を重ねて行くうちに、いろいろなことを理解してきた。先ほどの意見にもあったが、この自治会議に出た意見のうち、どれを実施していくのか。まちづくり協議会もあり、いろいろ実施している団体等もあるので、それらを継続してもらい、また、新しく決めたものも実施できるようになると思うし、それを願っている。</p>
委員	<p>まちづくり協議会の活動の中のまちづくり勉強会で、2年間かけて各地区を歩き、どういうものがあるのか、また、歴史などを見てまとめている。現在、データなどをピックアップして、まちづくり協議会の企画部でまとめている。詳しいことは、自治会議委員の中に、岡本地区と一緒に歩いた企画部の方があるので、お話していただきたい。</p>
委員	<p>先ほど、せっかく作成し出来上がっても、PRをしていかなければ、もったいないという意見が出た。私は、文化財の郷土芸能に取り組んでいるが、河内地区には、たくさんの郷土芸能がある。もちろんPRも大切だが、郷土芸能を維持していくことも大切である。後継者を指導して育成していくのは、もっとも大変なこと。たくさんの良い意見が出たが、地区外に向けてより、地区内の人にPRして、知ってもらうことが大切だと思う。地区内がしっかり知ってもらわないと、地区外にPRして来てもらう状態ではないと思う。</p> <p>河内地区にはたくさんの自然があるので、逆面方面でも、農地・水・環境保全向上対策事業を実施している。これは全国的にも有名で、努力されたおかげで、里山なども素晴らしいものができている。委員からも話があったように、まち歩きのデータベースが来年出来上がる。先週は、田原地区をピックアップされていたが、ぬけているような所もあるので、補足していかなければならない。白沢・岡本地区に関しても、近々まとまるのではないかと思う。それらについても、補足が必要になってくるので、今年度中にはまとめていきたい。企画部も人数が少ない中で活動しているので、がんばって作成して、出来次第、皆さんに提示したい。</p>

委員	<p>今の意見の補足だが、それらがまとまると河内地区のマップが出来上がる。自ずと地域のビジョンが見えてくるのではないかと、ということで現在進めている。</p>
委員	<p>Aグループ、B・Cグループの発表を聞いて、実現方策をどう実現プランに変えようかという協議だった。B・Cグループは、たくさんプランが出てそれをまとめていったら、また実現方策に戻ってしまった。Aグループは、具体的な方策を書いている。B・Cグループの中にも、Aグループと同じ内容がたくさん書いてあるが、まとめていくとB・Cグループの文章になってしまう。具体的な意見を合わせていくと、一緒になってしまい、どのように実施していくのかになると思う。私たちは、10年後の夢を、どのようにステップアップして行こうかとまとめている。関わるのは人である。だれが取組んでいくのか。自治会が弱くなっている。昔は、地域ごとの運動会で競争し、盛り上がっていたが、このようなものを作っていくと地域が盛り上がらない。</p> <p>山上げ祭りを見学に行ってきたが、毎年町内が分担で、山上げを担当している。凄いファイトがある。あの町内には負けたくないという気持ちで盛り上がっていた。良い意味で地域ごとに団結できるようなもの。具体的な実現プランを整理し、修正できるものが良いと思う。A・B・Cグループの意見をまとめただけでなく、本当にできるものを誰がやるのか。そして、私たちができないものを、どう支援を求めるのかを考えてまとめていくと良いのではないかと。</p>
委員	<p>今、意見が出たように、誰がやるのか。地域力というのが問題だと思う。今回の震災の例を見ても、地域力のあるところは復活が早い。私たちも、地域力を高めるといことが、この事業を実行する前には大切だ。私たちB・Cグループの実行プランは、確かに実現方策に戻っている。アイデアとしてひとつ例を出したい。『五体不満足』の著者、乙武氏の授業を参考に紹介する。保育園の経営をしている乙武氏は、授業として取り上げたのは、保育園の中にパン屋を作った。そして、保育園の子ども達と一般の市民との結び付きを始めた。こういうアイデアは、若い方でないと出ない。若い方にアンケートを取り、見出ししていないと、私たちには古い体験から基づいたものしか出てこないもので、10年先のことであれば、若い方のアイデアを引き出していくという作業の中から、実現プランを事業化していくものやっていく必要がある。この会議では、少しその部分が抜けていると思う。この点を補強していくような方向性を皆さんで考えていきたいと思う。</p>
会長	他に意見はあるか。
全委員	(意見なし)
会長	<p>どう具体的にプランを実施していくのかという提案や、また、その提案方法を重視しなければいけないと思う。提案方法が決まったら、スピーディーに実行していけば良いのではないかと。皆さんから、出前講座や各地域のイベントを視察するという意見が出たので、イベント視察に関して話をします。9月3日(月)の下野新聞の記事で、野木町でボランティア団体「ひまわり平成会」が、11年間にわたり連続してイベントを行っている。2001年にその会の方から、無報酬でイベントをコーディネートしてもらえないかと相談があった。引き受けて各大学の落語研究会に呼びかけ、2001年から「関東大学落語競演会」として始めた。意外にも人気を博し、毎年300席が超満員で、入場券も完売</p>

	<p>している。3年前からは、野木町長も必ず参加している。宇都宮大学、茨城大学、東京大学、慶応大学、鶴見大学、その間に埼玉大学、筑波大学、桜美林大学、法政大学等いろいろな大学が参加し、各大学の落語研究会の学生が出演している。今回は、テレビドラマの「踊る大捜査戦」で演奏していたプロの馬頭琴演奏者セーンジャーさんも来る。ボランティアの一人が私に相談に来て、当てもない企画だったが、昨年で10年間続き、今年も開催予定である。地域おこしというのは、このような具体的なもので良いのではないか。ここに集まる地域の方は、延べ人数3000人を超えている。落語というのは古典芸能で、日本文化の集大成のようなもの。情操教育や、日本語教育にも繋がり、あらゆる要素を持っている。このように企画を具体的に出して実施していけば、何年間もロングランで続いていく。今年も9月23日に野木町の町民会館で開催される。イベント視察の直近として格好の場所。このイベントに行政は一切関わっていないし、お金も出していない。「ひまわり平成会」の20人足らずの企画で、少なくとも北関東のいろいろな大学には知れ渡っている。そして、このイベントに出演させてもらいたいという声が多数ある。地域の中で、自己完結するのではなく、他の地域にも影響を及ぼしている。大学生という若い世代と地域の高齢者とのコミュニケーションが図られている。イベントが終わった後玄関先で、学生達が着物姿で見送りをする。高齢者たちが、皆さん感動して、学生達と握手をして帰って行く姿が、毎年光景だ。このようなイベントを実施していけば、ロングランになる可能性があるのではないかと思います、例えて紹介した。</p>
委員	<p>前期の自治会議までは、現在のテーマ「教育・文化、健全育成」の中に、スポーツのテーマが入っていた。「スポーツのまち河内」ということで、奨励され、活発にスポーツを行ってきた。今回は、「教育・文化、健全育成」にしてしまったので、スポーツがなくなってしまった。私は、実現方策の中で地域の各種団体や学校との連携を強化するという所に、スポーツが低迷する中、スポーツ振興をどのように、河内に根付かせていくのか。もう一度、復活させていくかを踏まえて入れてみてはどうかと、提案させていただきたい。</p>
委員	<p>先ほどの野木町の話で、私も野木町には関心を持っている。災害復興でも大勢の人が参加してくれる。福祉や行政の方なども多数参加している。野木町に最近あったお祭りだが、地域の全員が参加している。ある地域が70世帯あると世帯全員が参加して祭りを盛り上げている。地域力が高いところでは、イベントの成功の確率も高いと思う。地域力を高めることを、この河内でもいろいろな形で工夫していくことが必要だと感じた。</p>
事務局	<p>スポーツの件で委員から意見が出たが、提案を決める際に、4つに分けた経過がある。その中で、スポーツについては、重複することもあると思うが、大きく分けた際には、「福祉、健康、安全・安心」の中でスポーツを生涯にわたる推進ということで、大きな提案項目に掲げてその中で、議論していくという形で、委員の皆さんに理解いただいた経緯もある。教育の部分でもスポーツが関わってくるので、問題ないと思うが、そのような経緯があったことを報告する。</p>
会長	<p>スポーツが抜けているという感じを受けては、困るということ。これについて何か意見はあるか。</p>

委員	特に、今年から武道という枠で、剣道と柔道が授業に取り入れられる。学校の先生は、ほとんどやったことがないので、1週間研修を受ければ、初段がもらえると言っているが、それで本当に教えられるのか。地域には、剣道や柔道の達人もいて、その方が子ども達に、教えている。この方々が、地域の各種団体や学校と連携して、応援してもらえないかということで、この部分にスポーツを入れたほうが良いと思ったためである。
会長	取り上げるといろいろな問題がある。学校には、要請していく必要があると思う。他に意見はあるか。
全委員	(意見なし)
会長	素案のまとめ方については、皆さんの意見に沿うような形にしていく。こちらに一任していただけるか。
全委員	異議なし。
会長	次回は、素案としてまとめたものを提示する。その中で、意見や補足など出していきたい。

(3) その他

①次回の開催日程について

- ・平成24年12月上旬を予定

②その他

- ・河内地区自治拠点施設建設促進委員会の第1回開催結果の報告
- ・チャレンジ自然 in かわちのお知らせ

(4) 閉会